むさしオーガニック振興会

**有機農産物生産のすすめ**

有機農業に携わる前に

有機（organic）とは、「生体で生成された物質」という昔から言われている定義を引き継いでいる「生物由来」を意味する言葉です。

有機農業とは、自然界に存在するものを利用して堆肥をつくり、この堆肥を使った土をつくり、その土をもとにして、化学的に合成された肥料や農薬を使用せずに、自然の力を利用した農業です。

有機農産物は、自然循環的で、環境負荷をできる限り少なくした栽培方法で生産されたものということです。有機農産物を摂ることのメリットは、人間の身体の全細胞、あるいは血液が生まれ変われることにあります。全細胞は3年ほどで入れ替わることができ、血液にいたっては3か月程度で入れ替わるといわれています。つまり、農薬や化学肥料、有害な食品添加物の入っていない食べ物を摂ることで、血液も体細胞も生まれ変わることができます。

有機農家の現状

有機農産物は一握りの生産者によって作られているのが現状です。空気や水、土、農業にかかわるすべての環境を守るのが有機農業です。有機農産物の購入によって守られていくようになるのです。現在、有機農産物の生産量は農産物全体の1％未満程度で、残り部分がこれから伸びていく可能性といえます。

有機農家が実践している農業は、環境への負荷が低地域環境の清浄化に繋がっています。また、国産の農産物を食べることによって、国内の生産者を支え、日本の農業を守り、自給率を上げることにつながります。安全な食物を選んで、自然環境を守りましょう。

農業を支えることができはずです。世界的に見ると農業における有機農業の割合は高くなってきており、有機農家は全体として増加の傾向にあります。

生産過程の基本

ここでは、有機農作物の生産過程を見ていきましょう。

１）土づくり

作物がすくすく育つ土は、人工的に簡易につくることはできません。腐植や有機栄養、ミネラルなどが元ととなり、さまざまな微生物や小動物などの生物が豊かに育くまれ、時間をかけて徐々にできあがります。有機栄養、腐植やミネラルも微生物も小動物も全てが絶妙なバランスの構成要素です。バランスがとれた土では、病害虫の被害も少なくなり、品質のよい農作物が安定して育ちます。

・肥料

遺伝子組換肥料やそれらを餌とした畜産堆肥、鶏糞、汚泥肥料、化学肥料などは直ぐにバランスを崩し、油虫をはじめ、さまざまな病害虫が発生してしまいます。ミネラルは光合成や生体（酵素）反応の触媒作用など、植物の生育に必要不可欠で、各成分は「拮抗作用」と「相乗効果」の関係が絡み合っています。

・有機栄養

植物は無機物から有機物をつくっていく能力がありますが、化学合成された無機栄養を用いる方法はおすすめしません。化学肥料は生物を減少、死滅させますが、有機栄養はあらゆる生物を育むからです。人も動物も植物も微生物や小動物も生き物で、自然生態系の一部であり、生態系全体がバランスよく育まれる農法を目指します。有機栄養・肥培管理

病害虫発生は、

「病害虫が発生しやすい農作物」と「病害虫が発生しやすい環境」と「病害虫の存在」の3つの条件が揃ったときに発生するという実験結果があります。

（発生しやすい農作物とは軟弱で窒素過多、未消化窒素の多い農作物）

風通しや排水をよくする、高畝にする、雨よけをする、温度や湿度の管理、イオンバランス、適地適作…などさまざまな対策に取り組むことが肝要です。温暖化の影響で気候変動が激しく、対応が難しくなりつつありますが、栽培作物にあった環境をつくりだすことがこれからの最重要課題です。

最新技術（波動技術）である「アートテン農法」に期待が寄せられています。また、「太陽熱消毒」を行い、病害虫を減らしたり、リセット堆肥と併用してその効果を高めたり、環境管理型堆肥で土づくりを行い、病害虫の発生しにくい健全な土壌をつくり上げることも大切です。